

本業を通じた社会貢献こそ、CSRの原点。

株式会社百五銀行 代表取締役頭取 まえだ はじめ 前田 肇 様

三重県を地盤に地域密着型の堅実経営を推進し、東海圏の経済を支える百五銀行様。
明治期の創立以来、130年にわたって地域経済の発展に貢献し続けてきた同行の歩みは、
地域の金融機関が果たすCSRの実践の歴史と言えます。
長い歴史に裏づけられた同行の取り組みに学ぶべく、
前田頭取のCSRに対する考え方や方針を、当社常務の松森がお伺いしました。

前田頭取のプロフィール (2008年6月1日現在)

1963 (昭和38) 年4月	百五銀行入行
1988 (昭和63) 年2月	同行大阪支店長
1991 (平成3) 年7月	同行人事部能力開発室長
1991 (平成3) 年12月	同行人事部長
1993 (平成5) 年6月	同行取締役就任 同行人事部長委嘱
1995 (平成7) 年6月	同行地区本部長委嘱 (北勢地区担当)
1996 (平成8) 年6月	同行常務取締役就任
1997 (平成9) 年8月	同行専務取締役就任
1998 (平成10) 年6月	同行代表取締役専務就任
1999 (平成11) 年6月	同行代表取締役副頭取就任
2001 (平成13) 年8月	同行代表取締役頭取就任

その他の公職

2004 (平成16) 年4月～ 津銀行協会会長

地銀・百五銀行のCSRの考え方

松森 日本ユニシスは、百五銀行様とともに、1968年のバッチシステム導入を皮切りに、1993年の勘定系パッケージ・システム「TRITON®」の共同開発、そして現在は両社で共同開発した世界初のWindows®ベースのフルバンキングシステム「BankVision®」の本番稼働などに取り組んできました。そうした長きにわたるお付き合いのなかで、地方銀行としての競争力強化だけでなく、地域社会の活性化や地域の発展を視野に入れた貴行の事業姿勢に深い感銘を受けてまいりました。

前田 私どもが三重県津市で開業してから、今年で130年経ちます。これほど長い歴史を刻んでこられたのは、地域の方々の支えがあり、地域経済の発展があったからこそ。当行にとっては、地域社会との有形無形のつながりそのものが事業の基盤であり、地域への貢献は企業経営そのものと言えます。

松森 昨今、「企業の社会的責任（CSR）」という言葉が注目され、企業と地域社会との関わりがこれまで以上に重視されるようになっていますが、貴行では創業当時から、それを実践されてきたというわけですね。



前田 そう仰っていただけるよう、地域社会はもちろん、お客さま、株主のみならず、従業員、環境など、CSRで言うところの「多様なステークホルダー」に配慮した事業活動に取り組んできたつもりです。一方で、時代が変化するなかで、地方銀行に期待される役割も少しずつ変わってきたように思われます。そこで現在は中期経営計画「温故革新2009」を掲げて、事業変革や事業基盤の一層の強化に取り組んでいるところです。この計画を地道に実践していくことが、地方銀行としての今日的なCSRを果たすことにつながると考えています。

温故革新とCSR

松森 「温故革新」という名称はとてもユニークですが、どのような意味が込められているのでしょうか？

前田 「温故革新」とは、ご想像のとおり「温故知新」をヒントにした言葉です。「温故」とは、地元のお客さまとのフェイス・トゥ・フェイスのお付き合いや、預金と融資というコア業務など、私たちが

株式会社百五銀行様 会社概要(2008年3月31日現在)

名称 株式会社 百五銀行
 代表者 頭取 前田 肇
 創立 1878(明治11)年11月19日
 資本金 200億円
 従業員数 2,325名
 本店所在地 --- 三重県津市岩田21番27号
 事業内容 三重県・愛知県を中心とした銀行業務

130年の歴史のなかで培ってきたものを大切にしようという意味です。また、「革新」は、そこから新しい知識や知恵を得るだけでなく、保険、証券などの新しい業務分野への対応や、愛知県への積極進出など、さらなる挑戦をしていくことを意味しています。

松森 過去の蓄積を大切にしつつ、新しいことに取り組むという行動宣言なので、具体的な取り組みとしては、どのようなものがありますか？

前田 「温故」という面では、地元のお客さまのご要望にお応えするだけでなく、銀行業務を通じた地元貢献にまで踏み込んでいます。例えば融資業務では、CSR活動や環境保全活動に積極的なお客さまをバックアップできるよう「百五CSR融資」「百五CSR私募債」「百五ISOローン」「百五地球にやさしい商品購入ローン」など、金利を優遇した商品を発売しています。

松森 融資先が行うCSR活動や環境保全活動を支援するというのは、まさに地域ぐるみで持続可能な社会を創造していく、素晴らしい取り組みだと思います。



聞き手

日本ユニシス株式会社
代表取締役常務執行役員

松森 正憲

本業を通じた社会貢献こそ、CSRの原点。

ところで、「革新」は、コーポレートステートメントである「フロンティアバンキング」と関係があるのでしょうか。

前田 フロンティアバンキングには、「将来にわたってお客さまの期待にお応えできる創造力あふれる銀行でありたい」という想いを込めています。このステートメントでは、①日本で最も進んだ顧客サービスの実践、②最先端のサービスと商品の提供、③お客さまの期待を超える満足の提供、を宣言していますが、これらを中長期的に実現していくためには、未開拓の領域へ踏み出すことが不可欠になります。そうした意味で、「革新」を通じて初めて、ステートメントを達成できるということになります。

松森 「革新」的な取り組みとして、どのような挑戦をされているのでしょうか？

前田 2007年5月上旬に、Windowsベースのオープン系システムBankVisionが稼働していますが、このシステムによって「ど☆にちバンキング」やATMの稼働時間延長など、これまでにない新しいサービスが実現でき、おかげさまで多くのお客さまに喜んでいただくことができました。

松森 BankVisionの目的であるお客さまへのサービス向上が実現できたことは、開発に関わった当社としても嬉しい限りです。

前田 BankVisionは、他の地銀からも注目されています。オープン系ならではの開発効率の高さが認められれば、もっと仲間は増えていくと思いますので、いずれ地銀同士で共同の商品開発なども期待できますね。

松森 「温故革新」の実践は、本業を通じたCSRにつながるのですね。

地域社会との つながり重視と 地域社会への貢献

松森 今後の課題や取り組みとしてお考えのことはございますか。

前田 これまではお客さまに窓口に来ていただき、そこで接するというのが業務の基本でした。しかし、ATMなど機械化が進み、パソコンや携帯電話など新しいチャンネルができたことで、口座を持っていただいたお客さまでも当行から顔が見えないお客さまも増えています。そうした方々との接点をいかに作っていくかが、これからの課題だと思います。これを解決するために、日常のお取引だけではなく、お客さまを含めた地域の方々と一緒に取り組むような行事に参加できないか、銀行という場を活用いただき何かを学んでいただくことができないか、などと考えています。

松森 地域のみなさまとの関係づくりを大切にしておられる百五銀行様らしいお考えですね。

前田 地域との関わりについては、自然環境との関わりも深めていく必要があります。三重県には、伊勢湾や鈴鹿山脈など豊かな自然環境があり、これらを守ることは、三重県に本拠を持つ銀行としての責任だと思っています。そうした観点か



地域情報紙
「すばらしきみえ」の発行

ら、2006年10月から、三重県が取り組む森林づくり事業に参加しています。荒地地になった山を所有者の方からお借りして、行員とその家族が苗木を植えるのですが、その森を「百五の森」と命名しました。参加者から「苗の生長を見に行くのが楽しみ」と聞きましたので、他の場所にも「百五の森」を増やし、活動の輪を広げていきたいと考えています。環境保全という共通の話題で行員同士や家族の絆が深まるのはすばらしいことだと思います。



「百五の森」

松森 環境保全という面では、先ほどのBankVisionも、省スペース・省電力・短期間構築など、環境負荷低減に寄与するシステムです。

前田 確かに昨今、「グリーンIT」という言葉をよく耳にします。情報システムに関する環境負荷低減も、私たちユーザーにとっては大きな関心事項です。これからもぜひ、いろいろと提案していただきたいですね。

働きやすい環境づくりと 従業員との コミュニケーション

松森 昨今では、CSRの観点から女性従業員の登用が重視されていますが、百五銀行様でも多くの女性が活躍されているそうですね。



前田 当行は、銀行業務には女性の力が不可欠と考えており、昔から女性の比率が高く、正社員の約3割は女性、パートタイマーを含めると約半数が女性です。「革新」で述べたように、これからは投資信託や保険商品、国債などいろいろな商品を扱いますので、女性ならではのきめ細かなコミュニケーション力が活かせると思います。また、女性支店長3名をはじめ、管理職にも積極的に登用しており、支店長代理、係長を含めた女性管理職比率は2004年3月末で6%でしたが、2008年3月末は12%と倍増しています。

松森 そのために、女性が出産後も働き続けられる環境を整備されていると伺っています。

前田 はい。当行では子育て支援、育児休業制度などを充実させており、2005年には三重県の「男女がいいきぎと働いている企業ベストプラクティス賞」を受賞しました。今後もハード、ソフトの両面でさまざまな女性のライフスタイルを応援する、働きやすい職場づくりを追求していきたいですね。

松森 従業員とのコミュニケーションについてはいかがでしょうか。

前田 社会的な「信用」が何よりも大切ですから、社内においても経営側と従業

員との信頼関係を重視しています。とはいえ、100を超える支店がありますから、なかなか行員一人ひとりと向かい合うことは難しいですし、行員も経営陣の顔を見たい時があるはずです。そこで、できるだけ現場に出向く機会を作って、行員一人ひとりとコミュニケーションしていくよう努めています。例えば、私が頭取になってから始めた「コミュニケーション・ミーティング」では、「どうい銀行でありたいか」について、行員たちとざっくばらんな話をしています。信頼関係を築くには、一方通行ではなく、相互に意見を交換することが大切ですからね。

松森 ITが発達して、メールをはじめ、いろいろなコミュニケーションの手段が生まれていますが、メールはうまく活用しないと非常に冷たい印象になってしまいます。メールの得意な情報伝達機能を活かしながら、直接会ってお互いに意



「男女がいいきぎと働いている企業」
三重県知事表彰を受賞

思を伝え合う機会もきちんと用意することが重要です。

百五銀行様から 日本ユニシスへの期待

松森 本日はいろいろとお話を伺い、改めて百五銀行様とお付き合いさせていただいていることを誇りに感じました。

前田 日本ユニシスさんとは、まだ社名が日本ユニバックだった約40年前からの付き合いになります。現代の銀行業務はITを抜きには成り立ちません。これからも関連な意見交換をさせていただき、切磋琢磨しながら、より良いシステムをつくっていきたいと思います。また、それが、ひいては社会に対して良いサービスを提供していくことにつながると確信しています。今後も良きパートナーとして、いろいろな支援、指摘をお願いします。

松森 励みになるお言葉、誠にありがとうございます。一層の研鑽・努力を重ねてまいります。本日はお忙しいところ貴重なお話をいただき、ありがとうございました。